

より良い 市民病院を目指して

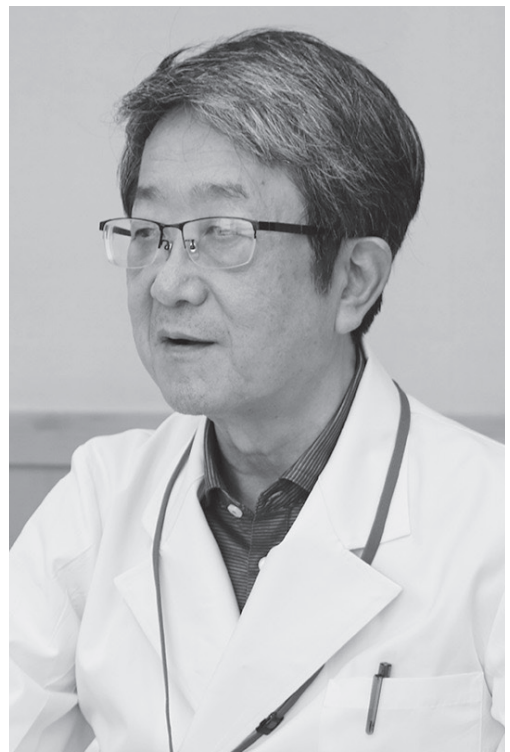
市民病院 ☎ 66♦2200



市民病院は、地域の中核病院としての役割を果たしてきました。現在全国の地域医療では、医師不足・経営難など多くの課題を抱えています。市民の命と健康を1つでも多く守るため、蒲郡市民病院では城卓志医師を最高経営責任者として迎えました。今号では、新体制となった市民病院のこれからについてお知らせします。

新風の展望

新体制としてスタートした市民病院は、何かが違う。では、何が変わったのか。最高経営責任者に就任した城卓志医師にインタビューしました。



—最高経営責任者として

蒲郡市民病院に赴任した

経緯を教えてください

私は前任地の名古屋市立大学病院で院長として大学病院の運営と経営にあたっており、これからの時代はスケールメリットを活かした病院連携が必要だと感じていました。そんな折、名古屋市立大学病院と蒲郡市との連携協定が成立し、このたびの着任の運びとなりました。

—市民病院の印象はどうでしたか—
外来スペースや手術室などが大きく広々としていて感じたのが第一印象です。市民病院はよく考へて作られていて、ハード面はとも良いです。また、382床という

中規模の病床で構成されていることも魅力的でした。

補足

・市民病院は、平成9年に八百富町から現在の平田町に移転しました。平成10年度に第30回中部建築賞入賞、医療福祉建築賞1998を受賞しています。

・4月1日に名古屋市立大学との寄附講座「地域医療連携推進学」を設置し、高度な医療の提供と地域医療の課題を研究しています。

用語解説

スケールメリット…規模の経済。同種のものが多く集まることで、単体よりも大きな効果が得られることを指す。

城 卓志 (じょう・たかし) 市民病院最高経営責任者

名古屋市立大学大学院を卒業後、昭和53年に同大学病院に消化器内科医として勤務。平成25～29年には同病院長として手腕を発揮し、今年4月から蒲郡市民病院最高経営責任者に就任。